

# 1 自己評価及び外部評価結果

(別紙4)

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2490200157		
法人名	株式会社四季の郷		
事業所名	グループホーム四季の郷羽津		
所在地	三重県四日市市白須賀2丁目11-4		
自己評価作成日	令和5年8月1日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=2490200157-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=2490200157-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和5年8月21日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の想い、尊厳を大事にし、利用者本位で過ごしていただいている。</li> <li>・食に対する楽しみを持ってもらうため、「特別食」、「特別デザート」を月1回実施している。また、誕生日会も毎月実施し、「お寿司」を提供している。</li> <li>・季節の花や果物の香りの入浴剤を使用した「特別湯」を月2回実施し、入浴することに楽しみを持ってもらうようにしている。</li> <li>・毎週月・土曜日は施設交流会を実施、外出・ふれあいの機会を確保して、利用者のストレス発散に努めている。</li> <li>・24時間対応が可能な医師を主治医としており、定期的な訪問診療だけでなく、緊急時の往診対応も行っていただくことで、いつでも安心して過ごしていただけるようにしている。</li> </ul>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>今年で11年目を迎える当事業所は、4階建ての建物の3階にある1ユニットのグループホーム羽津である。系列にデイサービス・グループホーム・有料老人ホームなど併せて総合的な老人福祉施設である。付近は会社や工場が多く民家はまばらであるが、地域の方々と共に高齢者の生活をサポートしている。コロナ禍で地域との交流も中断していたが感染予防対策優先の上、週単位で法人内の事業所間で交流の場を開催している。管理者・職員は利用者の楽しみごとや気分転換・ストレス発散となるような支援に取り組む工夫をしている。今年度、最高に盛り上がった夏まつりでは、男女ともお気に入りの浴衣を着て、女性は綺麗なお化粧をしてもらい楽しそうに踊る姿が見られた。また、法人全体で毎月、職員の資質向上に向けた研修も多く、資格保持者が多い事業所でもある。</p>
---

## V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作成、玄関、施設内に掲示しており、職員の意識付け、実践につなげている。内容についてはミーティングで検討している。	職員皆の想いで作った理念を玄関やリビングに掲げ、その都度ミーティングや朝礼などで再確認し、全職員で共有し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍になる前は職場体験で中学生が来られることもあった。コロナが5類になり、研修生や職場体験生の受け入れを再開している。	事業所周辺は会社や工場が多く民家は疎らである。地域との交流はコロナ禍で中止していたが、今年より学生の職場体験の受け入れを再開した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月、地域の各施設や市役所に「いすず会たより」を配布し、事業所内での生活、活動内容を報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍では文書での報告を運営推進会議の代わりとしていた。質問・意見欄を設け、自由に記述をしていただき、その意見をサービスの向上に活かしている。6月より運営推進会議を再開している。	コロナ禍の影響で長い間、書面報告のみであったが、今年6月より対面で開催し質疑応答など有意義な運営推進会議となった。今後も社会の情勢を見ながら出来るだけ対面での会議を続け、より良い支援になるように活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて運営状況の報告を行っている。また、書類を届けたり、電話での対応等、協力関係を築いている。	管理者は、介護保険関係や他の書類提出に市の窓口へ出向くなど日頃から連絡を密にしている。来年、新ユニット開設に伴い、相談・助言・ご指導を頂くために施設長が市の各担当者へ直接出向いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2か月に1回身体拘束廃止委員会を開催しており、身体拘束の内容、ケアのあり方について検討している。社内研修でも年2回、身体拘束排除について実施している。致し方ない場合のみ、家族に説明、同意を得た上で実施している。	2か月に1回身体拘束廃止委員会を開催している。社内合同研修会も年2回している。リビングに「言葉での拘束防止標語」を貼り、職員間で共有し拘束をしないケアに取り込んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会を2か月に1回開催している。また虐待防止をテーマに社内研修を実施している。社内ミーティングにおいても虐待につながる行為がないか検討することで、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修で成年後見制度、日常生活自立支援事業について学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書、重要事項説明書、同意書について説明を行い、利用者、家族の同意を得る様にしている。改定の際もその都度説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に利用者聞き取りを行い、意見があれば、管理者会議、運営推進会議にて報告を行っている。玄関に意見箱を設置し、気づいた点があれば自由に記述していただき、運営に反映させるようにしている。	コロナが5類に移行し家族との面会も居室でしている。家族へは利用者の近況報告やイベントなどの写真が多く載った「いすず会たより」を送付することで会話も増え意見や要望を聞く工夫をしている。また、家族も参加できるイベントを検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員より意見があれば言ってもらう様にしている。口頭で言いにくい職員はメモか連絡ノートに記入してもらおうようにしている。また、月1回入居ミーティングを実施し、職員同士の意見交換をする機会を確保している。	年1回、施設長との面談がある他、管理者は毎月のミーティングや日常の支援中でも職員より意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回、面談を実施し管理者や職員個々の努力、実績を把握している。また、職場でのストレスケアのため、職員の思いや希望を定期的に聞き取り、向上心を持って働ける環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者より、職員一人ひとりのケアについて聞き取りを行っている。法人以外の研修も案内を出し、参加につなげることで技能の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	羽津地域で行われるネットワーク会議や、施設部会に参加し、サービスの質の向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を実施している。本人の要望や不安な点など、聞き取りを行い、職員間で意見を共有し、本人が安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に説明を行い、家族の不安や要望を確認し、より良いサービスが提供できる様、努めている。入居後も定期的に連絡を取る等、コミュニケーションを大事にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人、家族の意向を確認し、ケアマネージャーとも相談しながらケア内容や福祉用具についてなど、必要な支援、サービスを見極めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の性格や生活歴等を把握し、一人一人が主役になれる場面を作る様にしている。他の利用者とのコミュニケーションが築きやすいように、職員が間に入ったり、状況に応じ座席を替え対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に関してはコロナの感染者数にもよるが、極力、対面での面会を行っている。家族が遠方にいる場合は適宜電話や報告書にて状況の報告を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話は本人、家族から要望があれば自由にできるよう支援を行っている。面会もできるだけ制限の少ないように対応している。家族との外出は時間、マスク着用等、条件をつけた上で実施している。	コロナ禍や利用者の入居年数により、馴染みの人との関係継続は難しいが、併設のデイサービスや系列事業所との交流会を通じて利用者間で馴染みが育まれている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が見守りをしながら、利用者同士の関係把握に努めている。その情報を職員間で共有し、必要に応じ職員が介入することで、利用者のより良い関係づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後でも必要に応じ、今後に向けての相談や支援の提供に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や思いを聞き取り、把握に努めている。自身の思いを伝えることが困難な利用者の場合は家族に確認を行った上で、本人本位に検討している。	入居時に一人ひとりの想いをくみ取って希望や趣味などを聞いているが、入居後も一日を通して支援時に利用者に寄り添い本音を聞き取り、タブレットに入力し、職員間で共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、家族よりアセスメントを行い、生活歴等の把握をし、本人に合った生活環境を整えることで、安心して生活することが出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前に本人・家族よりアセスメントを行っている。入居後も行動や心身の状態の変化がないか確認し、職員全体で把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時に本人、家族にケアのあり方について確認をしている。3か月毎に作成されるケアプランを軸に、どういった対応をしていけば良いかを入居ミーティングで確認し、全体に周知している。毎月モニタリングも実施している。	家族との介護計画の話し合いは利用者の病院受診時や電話などで聞き、毎月のミーティングで検討しモニタリングへと移行し、現状に即した介護計画を作成している。状態に変化があれば随時の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にケアの実践・結果や特記事項について記入している。毎日の申し送りや入居ミーティングで情報共有し、介護計画の改善に努めている。計画作成担当者や医療機関への情報提供にも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のニーズに対応して、希望に沿った柔軟な支援を実施している。医療が必要な利用者は提携医との連携を図っている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	関係職員と話し合いながら、それぞれの入居者に対しての支援の必要性に応じて地域資源の活用に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人、家族と相談をしている。希望があれば、これまでの主治医を継続している。施設では24時間対応が可能な医師を主治医としており、できるだけ訪問診療の体制を取れる様、連携を行っている。	利用者全員が個々のかかりつけ医を主治医とし、訪問診療を受けている。社内の巡回看護師の訪問および24時間対応で主治医の指示の下、随時の往診も可能であり安心した医療の支援体制が取られている。	
31		○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	社内にて巡回看護師がおり、利用者の健康面や医療面について相談・助言・対応をしていただいている。また巡回看護記録表を作成し、看護師のケア内容を介護職と共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族、病院関係者を通して、入院後の経過や相談事項などを確認している。退院後、適切な対応ができるために、必要に応じ、退院カンファレンスを行い、情報交換をしながら早期退院へ向けての支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化についての指針を説明し、同意を得ている。重度化してからも主治医、家族との連絡を密に行い、対応方法を共有している。終末期に向けて家族とは何回も話し合いをしている。	今までに家族と医療の連携を取りながら数名の看取りを行った。入居時に事業所の終末期のケア方針の説明と同意、緊急時の具体的な支援の在り方などを話し合い共有している。職員も実践しながら研修し、個々の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	オンコールシステムをとっており、急変時の対応はオンコールスタッフにより行っている。事故発生時に全職員が対応できるようにマニュアルを各フロアに掲示、AEDの設置、消防署での応急手当・心肺蘇生法の講習を受講している。		
35	(13)	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施。避難経路、誘導方法の確認を徹底。災害時に落ち着いて行動することができるように対応している。地域の人にも声掛け、協力体制を築いている。	コロナ禍で中止していた地区の防災訓練に参加できた他、事業所独自で年2回、火災・地震・風水害の昼・夜間想定避難訓練を実施している。生活必需品の備蓄は居住階である3階に保管している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として人格、個性を尊重している。職員全体の言葉遣いや態度には気を付けており、標語を作成し、全職員の意識づけをしている。社内ミーティングや身体拘束委員会でも、事例をあげ、対応に問題がないか検討し、サービス向上に努めている。	管理者・職員は、日常の何気ない一言で利用者を傷つける事の無いように職員間で話し合い、標語を作成し、目の付きやすい所に貼っている。法人として入社時や職員研修で「プライバシー保護」を取り上げ、個々のケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自由に話すことができる時間を作って対応している。自身で思いを伝えられる利用者は、思いを傾聴しているが、思いを伝えられない利用者は様子の変化に気を付けながら、職員の方から声をかけ対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大事にし、1日を過ごしていただくようにしている。声掛けも適宜行い、孤立状態にならないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の体感温度や意思を確認しながら、季節感のある衣類を着てもらっている。家族が利用者と衣替えを行っているところもあるが、家族が遠方にいる場合は家族が持ってきた衣類を、職員と利用者が一緒に整理している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳、下膳は利用者の転倒防止のため、職員が行っている。テーブル、お膳拭きは利用者と一緒に協力しながら行っている。月1回特別食があり、季節に応じた献立を提供している。	系列事業所と合同で1階で調理をしている。配膳・下膳は職員が行っている。毎月1回の特別食・デザートは利用者に好評で、ノンアルコールも飲んで食べる楽しみを皆に味わってもらう工夫を常にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を考え、栄養バランスの整った食事を提供している。食べづらい利用者は、食事形態の変更を検討し、本人の同意のもと、きざみ食等に変更している。水分量は水分チェックシートを用い、水分量が少ない利用者には声掛けをして飲んでもらっている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、口腔体操を実施している。また、毎食後に口腔ケアの声掛け、介助を行うことで口腔内の清潔保持に努めている。要望に応じ、協力医療機関の歯科衛生士による訪問診療や口腔ケアを受けられている。		
43	(16)	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを使用している。排泄パターンを把握し、時間を見ながら声掛けトイレ誘導をしている。自分で出来る事は自分でしていただき、介助は最低限にしている。	全職員が一人ひとりの排泄パターンを把握していて、声掛け誘導・見守りを行いながら排泄介助に取り組んでいる。常に自立支援を心掛け、介助は最低限にしている。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分・排泄チェックシートを使用、水分摂取の声掛けをしたり、好みの飲み物があれば、家族に依頼をして持ってきてもらっている。集団体操や散歩の声掛けも行い身体を動かしている。処方薬の適切な投与の調整も含め個別に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は月・水・金か火・木・土の週3回で行っている。時間はできるだけ本人の希望に沿った時間帯で入浴していただけるようにしている。毎月、特別湯の日を設定し、入浴剤を変え季節感を感じてもらっている。立位、歩行の不安定な利用者はシャワー浴対応をしている。	入浴は週3回を基本としている。毎月1回、特別湯を設け果物や花の入浴剤を入れ、ゆったりと寛ぎながら入浴を楽しんでもらう工夫をしている。浴槽に入ることが困難になれば、デイサービスの機械浴を利用することが出来る。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に体操やレクリエーションの参加を促し身体を動かしていただいている。夕食後は職員を交え、会話を楽しまれることで安眠できる利用者もいる。就寝時間は本人の自由に任せてあるが21時までには就寝されている。夜間は2時間ごとに巡視を行っている。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から出される個別の薬の説明書をファイルにはさみ、職員全員が確認するようにしている。仕分け・飲み忘れがない様に服薬チェックシートを作成し、チェックをつけている。状態変化時は施設看護師や主治医の指示を仰いで対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日会でのお寿司の提供やイベント等を実施し各自楽しめるよう支援している。洗濯物を畳んでいただいたり、下膳対応等、出来ることはしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の生活に張りを持たせるため、交流会、散歩、ドライブを実施している。コロナが5類になり、買い物レク等、外出できるレクリエーションも検討、実施している。	日常的には居住階の3階より降りて玄関前のプランターの花を見たり、駐車場内の散歩である。時々短時間の車窓ドライブで桜見物などして外出気分を味わってもらう支援をしている。	コロナが5類に移行し、外出可能に向けての準備として管理者・職員の提案（喫茶店へ行く）や利用者の要望も取り入れながら、楽しい外出支援が利用者の生きる力となるよう期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブル防止のため、お金は基本的に家族様が管理をしている。お金を持っていないことで不穏になる利用者については、家族の許可を得た上で所持している。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望があれば、電話や手紙のやり取りをしていただいている。5月からはアクリル板を挟んでの面会、6月からは訪室での面会を解禁している。7月からは外出も解禁している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	3階にあるため、風通しや日当たりは良い。感染症予防のため、定期的に換気を行っている。リビングには手作りのカレンダーを掲示している。	3階でのリビング兼食堂は、風通しと日当たりは良好で毎日、換気がされている。壁には季節感を取り入れた大判の手作りカレンダーが掲示してある。家庭的な環境の中で寛いで暮らせる工夫が随所で見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	雑誌や新聞を読みながら雑談したり、ソファに座ってゆっくりされたり、各自、思いのこを過ごせるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはタンス、クローゼット等の据え置き家具はあるが、使い慣れた家具や花などを置き、本人が居心地よく過ごせる環境に配慮している。	事業所としてエアコン、洗面台、整理タンスなどが設置されている他は、利用者が使い慣れた家具やお気に入りの写真などを飾り、ゆっくりと過ごせる居心地の良い居室となっている。新聞や雑誌の購読者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札を付け、トイレには表をつける等、利用者が分かりやすく、自身で行く事が出来る様に配慮している。居室内は転落防止のため、一部、窓を施錠している。		